

## 諸外国における対日メディア世論調査 調査結果の概要

新聞通信事業に関する調査研究、資料収集、講演会の開催などを行っている公益財団法人新聞通信調査会（理事長 長谷川 和明）は、2015年1月に「諸外国における対日メディア世論調査」を実施した。

調査は、アメリカ・イギリス・フランス・中国・韓国・タイの6カ国において、各国約1,000人の回答を得た。アメリカ・イギリス・フランス・中国・韓国は電話調査、タイは面接調査で行った。中国では質問についての制約が多く、今回調査で設定した16問のうち、5問の調査を行うにとどまった。調査結果の概要は以下の通りである。

### 主な調査結果

**新聞の情報信頼度はタイが65.6点で最高。  
韓国55.9点、アメリカ54.5点、フランス53.7点、  
イギリス50.4点。**

・新聞の情報をどの程度信頼しているかを、全面的に信頼している場合は100点、全く信頼をしていない場合は0点、普通の場合は50点として点数をつけてもらったところ、タイが65.6点、韓国55.9点、アメリカ54.5点、フランス53.7点、イギリス50.4点であった。昨年9月に新聞通信調査会が実施した日本の「メディアに関する全国世論調査」では、新聞の情報信頼度は69.2点だった。（4ページ 図表1）

・新聞の役割については、すべての国で「インターネットなどの普及により新聞の役割が少なくなってくる」が「今までどおり、新聞が報道に果たす役割は大きい」を上回る。アメリカ・フランス・韓国・タイでは「新聞の役割が少なくなってくる」が半数以上。（5ページ 図表2）

### 日本のメディアの認知度は韓国が突出。

・日本のメディアの認知度は韓国が突出して高い。韓国以外の国では「知らない」人が60%以上、アメリカでは90%近く。知っているメディアでは、「NHK（ワールドTV、ラジオジャパンなど）」がすべての国で1位。（6ページ 図表3）

・日本のことが報道されると関心を持って見聞きするのは、タイで94.1%と高い。アメリカ・イギリス・フランス・韓国でも半数以上が関心を持っている。（6ページ 図表4）

2015年3月  
公益財団法人 新聞通信調査会

## 日本に関して知っていることの第1位は「東日本大震災とそれに伴う原発事故」。

- ・日本に関して知っていることは、すべての国で「東日本大震災とそれに伴う原発事故」が1位。アメリカ・イギリス・フランス・韓国では「日本と近隣諸国との外交問題」が2位。タイでは「2020年に日本でオリンピック・パラリンピックが開催」が2位。(7ページ 図表5)
- ・日本についての知識や情報の入手先は、すべての国で「自国のテレビ、新聞、雑誌」が1位。アメリカを除き「インターネット」が続く。(7ページ 図表6)
- ・日本に対して興味を持つ分野は、アメリカ・イギリス・フランスは「歴史と文化」「科学技術」、韓国・タイは「観光」「生活様式、食文化」が上位に。(8ページ 図表7)
- ・日本に関する報道で、各国民が日本のメディアに期待する内容を挙げてもらった。1位は、アメリカ・イギリスでは「科学技術」、フランス・韓国では「歴史と文化」、タイでは「観光」。2位にはアメリカ・イギリス・フランスは「国際協力、平和維持活動」、韓国は「政治、経済、外交政策」、タイは「生活様式、食文化」が続く。(8ページ 図表8)

## 訪日経験があるのは韓国で44%。訪日意向はタイで91%、アメリカ・イギリス・フランス・韓国は半数以上、中国は21%。

- ・訪日経験があるのは韓国で43.8%。アメリカ・イギリス・フランス・タイ・中国は10%未満。(9ページ 図表9)
- ・訪日意向はタイで90.8%と圧倒的。アメリカ・イギリス・フランス・韓国では半数以上。中国では21.4%。(9ページ 図表10)
- ・訪日意向のある人に行ってみたいところを挙げてもらったところ、すべての国で「東京」が1位。以下、僅差でアメリカ・イギリス・フランス・タイは「富士山」、韓国・中国は「北海道」が続く。(10ページ 図表11)
- ・訪日意向のある人に日本で体験してみたいことを挙げてもらったところ、アメリカ・イギリス・フランス・タイは「京都など日本の文化と歴史ある街を観光する」、韓国は「温泉に入る」、中国は「買い物をする」が1位。韓国を除き「日本食を食べる」が2位に。(10ページ 図表12)

## 主な調査結果 (つづき)

**日本に対する好感度、信頼度はタイで 90%超。  
アメリカ・イギリス・フランスで 70%前後。  
韓国は 30%以下。**

・日本について「好感が持てる」はタイで 94.1%、アメリカ・イギリス・フランスは 70%前後。韓国は 29.5%と低い。(11 ページ 図表 13)

・信頼度は好感度とほぼ同様の比率、ただし韓国は 18.8%と極端に低い。(11 ページ 図表 14)

**日本に期待する活動は、「国際的な平和への積極的な貢献」  
「日本食や観光地などを紹介するイベントの開催」が上位。**

・日本に対して期待する活動は「国際的な平和への積極的な貢献」「日本食や観光地などを紹介するイベントの開催」が上位に。アメリカでは「伝統的な文化や武道を体験できる場の提供」が 1 位。(12 ページ 図表 15)

**知っている日本人、アメリカ・イギリス・フランスは「昭和天皇」、  
中国・韓国・タイは「安倍晋三」が 1 位。韓国では「伊藤博文」が  
2 位。**

・知っている日本人の名前を 1 人挙げてもらったところ、アメリカ・イギリス・フランスは「昭和天皇」が 1 位。中国・韓国・タイは「安倍晋三」が 1 位。

・2 位にはイチロー（アメリカ）、「オノ・ヨーコ」（イギリス）、「宮崎駿」（フランス）、「山口百恵」（中国）、「伊藤博文」（韓国）、「蒼井そら」「金城武」（タイ）と分散。

(13 ページ 図表 16)